



絡翠荘

「絡」には開わりや繋ぎという意味があり、「翠」は青い海や空、緑の棚田や自然を表す。人と自然の中に溶け込みながら様々な要素を巡らせ絡ませながら循環する。

01 家族構成

夫婦共働きの生活スタイル
夫 (32歳)：IT関連企業に高めるエンジニアで、主に在宅勤務で仕事をこなす。読書、園芸、料理が趣味。
妻 (35歳)：地元役場に勤務する公務員。アウトドアやキャンプなどが趣味。
長女 (5歳)：こども園に通っている。活動的で、体を動かすことが好き。
長男 (2歳)：長女と同じこども園に通っている。多くの人や自然とふれあいを求めている。都市を離れて、自然豊かな地域での生活を望んでいる。

02 周辺環境

京都府京丹後市京丹後町袖志
課題地域の周辺環境に、京都府京丹後市京丹後町袖志を選定した。袖志は、北側に日本海が広がる。棚田を通じて、心地よい海風が棚田の自然に流れていく。四方を様々な自然に囲まれていて、どの季節でもどの時間帯でも自然を感じられる。袖志の特徴である棚田の緑やかな高低差を活かし、自然と調和した心地よい住宅を提案する。

03 基本構想

家を選んで循環する3つの要素
計画の上で大切な要素である、家族、自然、素材の3つのサイクルを中心に考える。持続可能が求められる今、家族にも環境にも優しい住宅を提案する。



04 平面構成

循環型平面の暮らし
連続性や柔軟性を持つ緩き間型平面をもとに、各室の固有性を高める工夫を用いた、循環型平面を提案する。互を中心にして生まれたプレが室ごとにフレキシブルを構成し、一定でのながらも、程よい距離を保ち子育てと仕事ができる空間を作り出す。

05 空間構成

室内外をつなぐ土間LDK
広々としたLDK全体を外部と同じ高さとし、土間空間にさせることで、シームレスで解放的な空間となる。緩やかに繋がることで、家族間と外部の自然な関わり合いが生まれる。



06 屋根構成

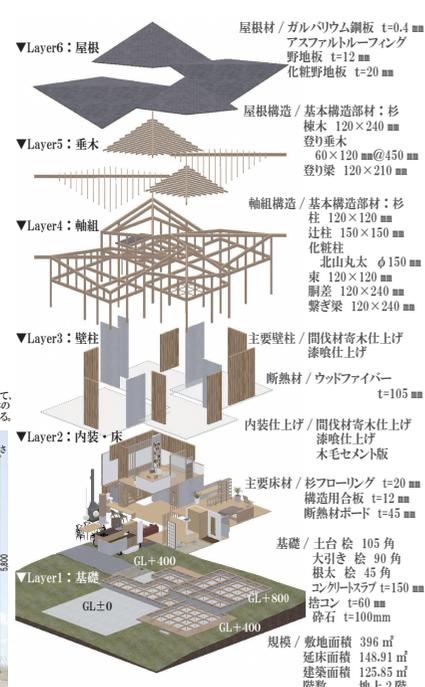
居場所を与える流れる小屋根
スレを与えた平面構成に、分散しながら連続する流れる小屋根をかける。棚田から吹き上がる自然の空気を取り入れ、部屋全体に広がり、ゆらゆらとした空気を循環させる。



07 素材提案

地域材や間伐材の利用
京都市や丹後、中丹地域では昔から林業が盛んに行われてきた。地域材を構造部材に使い、間伐材を断熱材と仕上げ材に用いて、廃材や間伐材を活用した肌触りや家具を設置する。「建築が、森林を健全に保つ」循環を作る。

08 構成ダイアグラム



09 生活スタイル



内外に作られた様々な間が、家族一人一人の生活リズムのための居場所を作る。棚田から吹き上がるような風が、共有の間から個人の間にまで部屋全体を体感できる居場所にする。外部とのシームレスなつながりが、日々の暮らしの中に新しい刺激や環境を与えてくれる。

10 平面計画

成長に対応する2FL
2階の平面計画は家族の生活に対応させる。子供が小学校入学前は、階段をのぼると室全体がホールのように広々とした空間になる。子供だけでなく大人も使える場所になる。子供が小学校に入学する時には、二室に分けて子供のプライベートを守る。子供が自立し、独立するときは2FLは夫婦の趣味の部屋として活用する。子供の成長、家族の生活に柔軟に対応できる。

